

# 第3学年 道徳科学習指導案

平成30年10月31日（水）第5校時

1 主題名 正しく強い心 内容項目【C 公正、公平、社会正義】

2 ねらい 相手によって公平にできなくなる主人公の弱い心が自分にもあることに気付き、主人公はどうするべきだったかを考える学習を通して、誰に対しても公正、公平な態度をとることは、みんなが気持ち良く生活することにつながることを考え、誰とでも分け隔てなく公正、公平に接しようとする判断力を養う。

教材名 「しんぱんは自分たちで」（出典：「みんなの道徳 3年」学研教育みらい）

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

小学校第3学年及び第4学年の指導の観点は、「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。」である。第1学年及び第2学年においては、「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。」によって育まれており、第5学年第6学年「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」へと発展する。民主主義社会の基本である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うことに関する内容項目である。

児童は、誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切さを理解してきている。しかし、自分の仲間を優先してしまったり、相手によって態度を変えてしまったりすることも少なくない。主人公と同じように自分自身にも弱い心があることに気付き、主人公はどうするべきだったかを考えさせることで、自分自身を見つめさせたい。

指導にあたっては、不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障を来し、いじめなどにつながることを理解させることが求められる。そこで、誰に対しても公正、公平に接することのよさを考えさせたい。誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにすることが重要であると考え。

### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、休んでいる友達や体調の悪い友達、困っている友達に優しく接することができたり、班やチームが変わってもすぐに仲良くなることができたりする。一方で、遊びに誘う友達が偏っている児童がいたり、クラスでレクをやっているときに「もし間違えたら〇〇さんのせいだよ。」と言ったりする児童も見られた。

そこで、「公正・公平」について次のようなアンケートをとった。

問1 ①**仲良しな友達が、ルールを守っていませんでした。あなたは、注意できますか。**

はい・・・28人      いいえ・・・7人

②それはなぜですか。(自由回答)

【はいの理由】

- ・仲良しだから。
- ・仲良しの友達が、ルールを守っていなかったら嫌だから。
- ・友達がルールを守れない人になるから。
- ・ルールを守らないと危ないから。
- ・危ないことをしたら、お母さんたちが困るから注意する。
- ・もう遊べないかもしれないから。
- ・友達が危ない目にあってほしくないから。
- ・ルールを守らないと楽しくないから。
- ・怪我や大きな事故につながるから。
- ・やってしまった子も、やられた子もかわいそうだから。
- ・他の人にも迷惑がかかるから。
- ・注意をしないと、同じことが続くから。
- ・お家の人も悲しむから。

【いいえの理由】

- ・注意すると、友達をやめられてしまうかもしれないから。
- ・注意をした後に、何を言われるか怖いから。
- ・「別にいいでしょ。」と言われて、喧嘩になりそうだから。

問2 ①**あまり話したことの無い友達が、ルールを守っていませんでした。あなたは、注意できますか。**

はい・・・17人      いいえ・・・18人

②それはなぜですか。(自由回答)

【はいの理由】

- ・危ないから。
- ・同じ命をもっているから。
- ・自分が嫌なことになることがあるから。
- ・周りの人も嫌な気持ちになるから。
- ・だめなものは、だめだから。
- ・助けたいから。

【いいえの理由】

- ・話したことがないと言いつらいから。
- ・あまり話したことがないからしゃべりにくい。
- ・ちょっと怖いから。
- ・友達じゃないと無視されそうだから。
- ・緊張するから。
- ・注意できたら、仲良くなれるかもしれないから。
- ・「そんなに話したこともなくせに。」と言われてそうだから。
- ・その人がどんな人か分からないから。
- ・少しはずかしいから。

アンケートの結果から、80%の児童が仲の良い友達には注意できると回答したことが分かる。7月に授業で行った、「あと、一言」(内容項目 A善悪の判断、自立、自由と責任)では、「正しいと思ったことは自信をもって友達にも教えてあげたい」という考えが出た。今回のアンケートでは、その授業の影響もあると考える。しかし、あまり話したことの無い友達には48%の児童しか注意できないということが分かった。相手との仲が良いほど注意をすることができるようである。このことから、相手によって公平

にできなくなる自分の弱さを見つめ合わせ、誰に対しても公正、公平に接することのよさを考えさせたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、審判である主人公のけんたが、苦手な存在であるりょうに「おれたちが勝てるように協力するんだぞ。」と不正を働きかけられる。試合中、ドリブルをしているりょうは、ボールを取ろうとした相手チームのたか子をつきとばし、シュートを決めた。けんたは、りょうの不正を見ていながらルール違反の笛を吹けず、たか子のチームメイトに抗議されたが迷ってしまい、正すことができなかった。

本時では、けんたの良心と心の弱さに分かれて役割演技をすることを通して、迷うけんたの気持ちに共感させるようにする。その後、「りょうに注意できなかった」後と、「仲良しで優しいAさんに注意できた」後はどうなるかを考える話合いの中で、自分と友達の考えを比較し、自分なりの答えに辿り着かせるようにする。そこから、誰に対しても公平に接することのよさを考えさせ、その大切さを理解させるようにしたい。

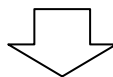
以上の理由から、本主題を設定した。

## 4 新和小学校の研究テーマとの関わり

|   |
|---|
| 自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする児童の育成<br>～仲間と共に高め合い、豊かな心を育てる道徳教育～ |
|---|

### <仮説1>

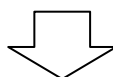
「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「体験的な学習」等、多様な方法で指導を行い、自分の考えを他者と伝え合う活動などを充実させ、児童が主体的に学ぶ授業を実践し、道徳ノートの活用、児童の変容が見取れる評価の工夫をすれば、物事を多面的・多角的に考え、ねらいとする道徳的価値にせまることができ、児童の豊かな心を育むことができるであろう。



仮説1に迫る手立てとして、児童が問題意識をもって学習を進められるよう、事前にアンケートをとり、クラスの現状を児童と共有する。授業の中で取り上げることで、読み物教材の中で起こっていることを自分事と捉えさせるようにする。また、良心と心の弱さに分かれて役割演技をすることで、迷うけんたの気持ちに共感させるようにする。赤白帽子を用いて立場をはっきりさせ、即興的に自分の考えを表現させたい。さらに、「りょうに注意できなかった」後と、「仲良しで優しいAさんに注意できた」後はどうなるかを比べて考える話合いを行う。話合いの視点を提示し、話合いが円滑に進むようにする。

### <仮説2>

学んだことの振り返りが常時できる道徳環境の整備、他教科との指導の関連、仲間と共に高め合う場面の設定、家族との連携を図れば、児童の道徳性を養うことができ、児童の豊かな心を育む事ができるであろう。



仮説2に迫る手立てとして、教室の側面に毎時間の授業の板書と児童のふりかえりカードを掲示し、学習した内容を常時振り返ることができるようにする。また、授業の中で、児童や主人公の考えの変化の様子が分かり、学んだことの振り返りができるよう、板書の工夫をする。その板書の写真を学級通信に載せることで、家庭でも授業の内容にふれたり、意見交換をしたりして、児童の豊かな心を育むための協力を得るようにする。

5 展開

(1) 新和7 (セブン) ※学習指導要領・指導方法の工夫より

ウ 話し合いの工夫

- ・「りょうに注意できなかった」後と、「仲良しで優しいAさんに注意できた」後はどうなると思うかを話し合う。話し合いの視点を明確にして、双方を比べて考えさせるようにする。

オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫

- ・「ルール違反だと言う」という心と、「ルール違反だと言わない」という心に分かれて役割演技をすることで、迷うけんたの気持ちに共感させるようにする。
- ・赤白帽子を用いて役割演技を行い、自分が考えている立場を明確にする。

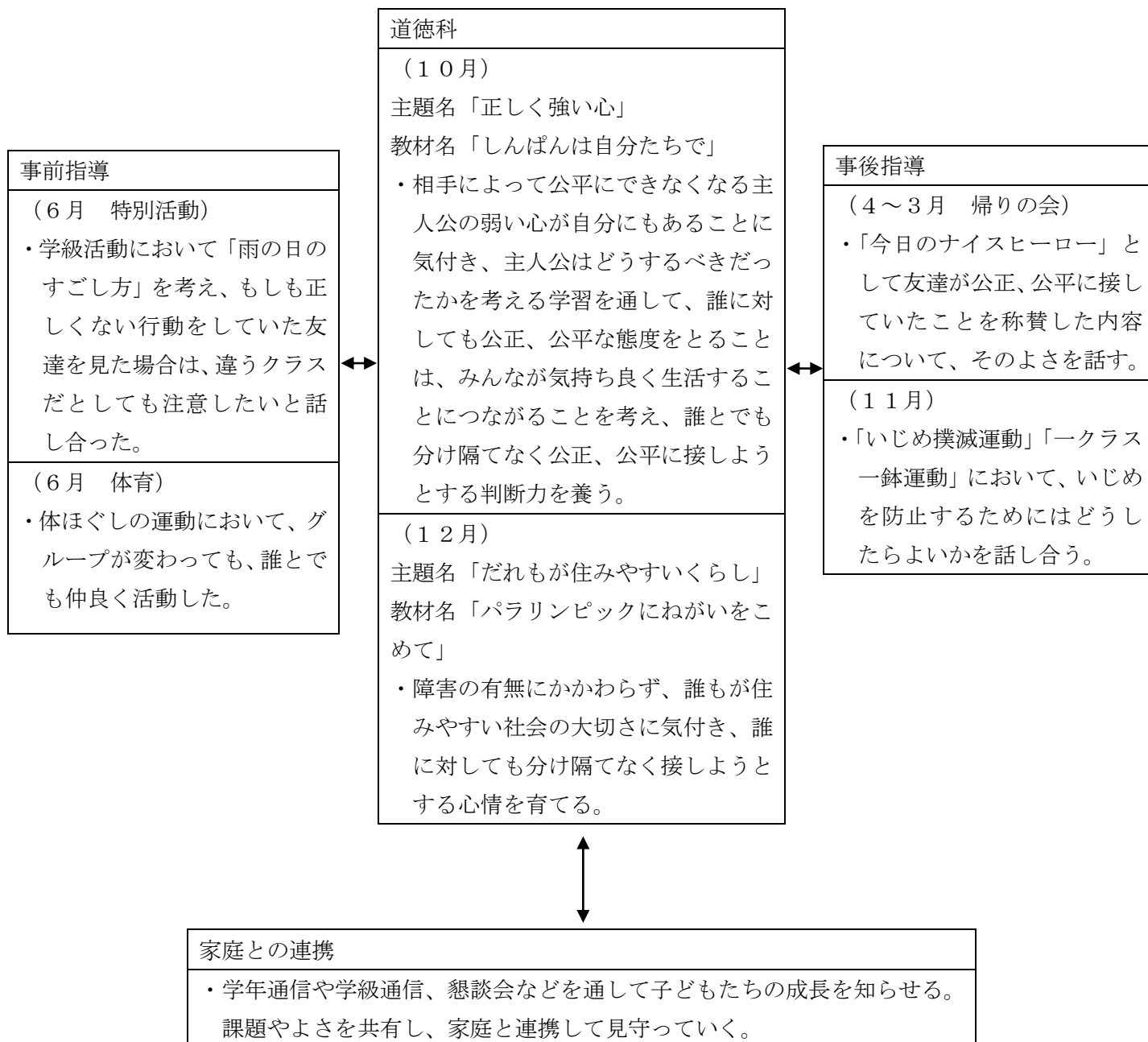
(2) 学習指導過程

| 段階 | 学習活動 主な発問  | ・予想される児童の発言  | ・指導上の留意点 ☆評価の視点<br>◆新和7   | 時間 |
|----|--|--|---|----|
| 導入 | 1 「公正・公平」についてのアンケート結果を見て、自分の生活を思い起こす。  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公平に接することが大切だと分かっていながらも、親しい人とあまり親しくない人に対する態度が異なってしまうことに共感させるようにする。</li> <li>・ねらいの価値への関心が高まるようにする。</li> </ul> | 5  |
|    | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>課題</b> 誰に対しても公平に接することのよさは何だろう。         </div>   |  |   |    |
| 展開 | 2 教材について、条件・状況を知る。   |  |   | 1  |
|    | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           条件・状況<br/>           主人公 けんた りょう<br/>           ・審判であるけんたは、苦手な存在であるりょうに「おれたちが勝てるように協力するんだぞ。」と不正を働きかけられる。<br/>           ・ドリブルをしているりょうは、ボールをとろうとした相手チームのたか子をつきとばした。         </div> |  |   |    |
|    | 3 教材「しんぱんは自分たちで」の読み聞かせを行う。   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「りょうはルール違反をした」ということをしっかり押さえさせるようにする。</li> </ul>   | 3  |
|    | 4 話題をもとに話し合いを行う。<br>(1) 試合前りょうに「おれたちが勝てるように協力するんだぞ。」と言われたとき、けんたはどんな気持ちだったでしょう。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやだな。</li> <li>・りょうは勝ち負けにこだわるから苦手だな。</li> <li>・そんなことできないけど、協力しなかったら何と言われるか不安。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な友達に不正を働きかけられて、困るけんたの気持ちに共感させるようにする。</li> </ul>   | 3  |

|   |  |  |   |   |
|---|--|--|---|---|
| 展<br>開  | <p>(2) けんたは、何と何で迷っていたのでしょうか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうしよう。</li> <li>・ 「ルール違反だよ」と言うか、言わないかを迷っている。</li> </ul> <p><b>【言う】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しいことは言わなきゃ。</li> <li>・ りょうが怖いからって、言わないのはよくない。</li> <li>・ ルール違反を許してはいけない。</li> <li>・ たか子のチームに嫌な思いをさせた。</li> <li>・ 審判は、公平でなくてはならない。</li> </ul> <p><b>【言わない】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ りょうに何と言われるか不安。</li> <li>・ その時に笛を鳴らせなかったから、今更言えない。</li> <li>・ りょうのチームは勝てて喜んでいる。</li> <li>・ たか子のチームだって、りょうには言えないじゃないか。</li> </ul> | <p><b>◆オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 迷うけんたの気持ちに共感させるようにする。</li> <li>・ 「言う」と「言わない」に分かれ、役割演技をする。</li> <li>・ 赤白帽子を用いる。「言う」は赤帽子、「言わない」は白帽子を被り、自分がどちらの役割を演じているか分かりやすくする。</li> </ul> | 7 |
|   | <p><b>補</b> もしも、仲良しで優しいAさんが、りょうと同じ事をしたとしたら、けんたは「ルール違反だよ」と言うでしょうか。それとも、言わないでしょうか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ルール違反だよ」と言えたかもしれない。</li> <li>・ 優しい友達だったら言えるかもしれない。</li> <li>・ 迷わずに言えたと思う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注意できるかできないかが、相手によって変わってしまうけんたの弱い心に気付かせる。</li> <li>・ アンケート結果を活用する。自分たちも、「仲良しな友達」に対する態度と、「あまり話したことのない友達」への態度に差があることに気付かせる。</li> </ul>  |   |
| <p>(3) 「りょうに注意できなかった」後、どうなったと思いますか。また、「仲良しで優しいAさんに注意できた」後はどうなると思いますか。</p> | <p><b>【「りょうに注意できなかった」後】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たか子のチームは、悲しむ。</li> <li>・ りょうのチームは、本気で喜べない。</li> <li>・ りょうはまた同じようなことを繰り返す。</li> <li>・ 違反をしたりょうも、注意で</li> </ul> | <p><b>◆ウ 話合いの工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えとその理由を考えた上で、話合いをする。</li> <li>・ 話合いの視点を提示し、話合いが円滑に進むようにする。</li> </ul> <p>☆誰に対しても公正・公平に接することのよさについて、自分と友達の考えを比較し、自</p>   | 10  |   |

|        |   |  |   |   |
|--------|---|--|---|---|
| 展<br>開 | <p>(4) 誰に対しても公平に接することのよさは何だろう。</p> <p>5 今までの自分の生活を振り返り、よりよい生き方を考える。</p> | <p>きなかったけんたも責められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスが嫌な雰囲気になる。</li> </ul> <p>【「仲良しで優しいAさんに注意できた」後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たか子のチームは、相手を許して、もう一度試合を頑張れる。</li> <li>・注意されたチームは少し悔しいけれど、正々堂々と頑張ろうと思える。</li> <li>・注意された子は、ルールに気をつけて試合をしようと思える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが楽しく生活できる。</li> <li>・みんなが仲良く生活できる。</li> <li>・お互いの思いを素直に伝え合える。</li> <li>・みんなに優しくなれる。</li> </ul> | <p>分なりの答えに辿り着くことができている。</p> <p>☆今までの自分と他人との関わり方を振り返り、誰に対しても公正・公平に接していくことの大切さについて考え、ワークシートに記入している。</p> | <p>8</p> <p>5</p>   |
|        | 終末  | <p>6 教師の説話を聞く。</p>   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の姿の写真を見せ、誰に対しても公平に接してこうとする気持ちが高まるように、余韻をもって終わるようにする。</li> </ul> |

## 6 他の教育活動との関連



## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・誰に対しても公正・公平に接することのよさについて、自分と友達の考えを比較し、自分なりの答えに辿り着くことができている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・今までの自分と他人との関わり方を振り返り、誰に対しても公正・公平に接していくことの大切さについて考え、ワークシートに記入している。

第21回 道徳

しんぱんは自分たちで

**課題** だれに対しても公平にせつすることのよさは何だろう。

けんた



サッカーのしんぱん  
りょうのことが苦手

りょう



おれたちがかてるよ  
うに協力するんだぞ  
相手チームのたか子  
をつきとばした。

「ルールいはんだよ」と…

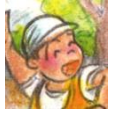
言う



言わない

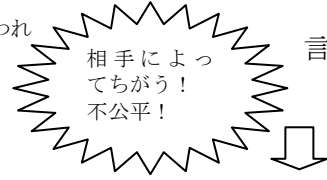


なかよし  
やさしい  
Aさん



- ・正しいことは言う
- ・しんぱんとして、ル  
ールいはんをゆる  
してはいけない
- ・りょうがこわいから  
って、言わないのは  
だめ

- ・りょうに何と言われ  
るかふあん
- ・こわい
- ・今さら言えない



言える！

どうしよう  
いやだな  
協力はしたくない  
でも…



たか子チーム  
かなしむ  
りょうチーム  
本気で喜べない  
りょう  
また同じ事をするかも

たか子チーム  
相手をゆるして、また  
がんばれる  
りょうチーム  
せいせいどうどうが  
んばろう  
Aさん  
ルールに気をつけよ  
う

みんなが楽しく、なかよく生活できる  
みんなにやさしくなれる



# 教材吟味表

【教材名】 しんぱんは自分たちで (出典：「みんなの道徳 3年」 学研教育みらい)

【スタートの条件・状況 (登場人物等)】 (主人公：けんた・りょう・たか子)

- ・審判であるけんたは、苦手な存在であるりょうに「おれたちが勝てるように協力するんだぞ。」と不正を働きかけられる。
- ・ドリブルをしているりょうは、ボールを取ろうとした相手チームのたか子を思い切り突き飛ばした。

【話題につなげたい場面や気持ちの変化、キーワードや話合いの柱など】

**課題** 誰に対しても公平に接することのよさは何だろう。

体育の時間

けんたのクラスでサッカーが始まった。けんたのクラスでは、試合のときに自分たちで審判をしている。みんながサッカーのルールにも慣れてきたので、クラスで話し合い、試合をしていないチームから審判を一人出すことになった。→けんたは、自分たちで審判をするようになって、サッカーがもっと楽しくなった。  
今日は、けんたが審判をする日。一試合目の審判を任せられ、みんな笑顔で終わることができた。二試合目はけんたも試合に出た。

・自分たちで審判をするって楽しい。やりがいがある。

試合前

三試合目のチームの中には、りょうがいる。りょうは、勝負のことになるとうきになり、試合に負けるといつも誰かのせいにして、その人をひどくせめる。だから、けんたはりょうのことが苦手だった。

試合開始

りょう「おい、けんた。おれたち、今日は、まだ一回も勝ってないんだ。なるべく、おれたちが勝てるように協力するんだぞ。」  
けんたは、どきどきした。

・どうしよう。  
・協力なんてできないよ。でも、何と言われるか不安。

試合中

何事もなく試合は進んでいたが、試合も残りわずかというところで、りょうのチームが、相手チームに一点を取られてしまった。りょうは怒っている。顔を真っ赤にしたりょうは、ドリブルでゴールを目指す。そのとき、ボール取ろうとした相手チームのたか子を思い切りつきとばし、たか子は転んでしまった。りょうは気にせず、そのままシュートを決めた。「やった！同点だ！」りょうは喜んでいる。たか子のチームメイトが、けんたのところへ走ってきて言った。「しんぱん！しんぱん！今のはルールいはんだぞ！」  
「たか子さんをつきとばしたのだから、得点はなしだよ。」

(どうしよう。)  
けんたは、まよった。

ルール違反だと言う

・相手がりょうでも、正しいことは言わなきゃ。  
・ルール違反を許してはいけない。

ルール違反だと言わない

・りょうに何と言われるか不安。  
・その時に笛を鳴らせなかったから、今更言えない。

りょう「おいおい、たか子のほうが、おれにぶつかってきたんだぞ。」  
たか子は何も言えずにだまっている。  
りょう「ほらな。何も言わないじゃないか。」  
「しんぱんのけんただって、笛をふかなかったじゃないか。しんぱんの決めたことにもんくを言うのか。」

けんたの心は、ずきずきといたんだ。

・りょうにルール違反だと言えなかった。  
・たか子のチームに嫌な思いをさせた。

全ての試合が終わった後

チームごとに今日の感想を言っていく。他のチームが「チームワークがよくなりました。」など、楽しかった感想を言っていく中で、たか子のチームが感想を言う番になった。  
けんたは、ずっと下を向いていた。

・もしも、仲良しで優しいAさんがりょうと同じ事をしたら…？  
→「ルール違反だよ」と、言えると思う。

相手によってちがう！不公平！

「どちらかには注意するが、どちらかには注意しない。」  
・不公平な態度は、周りの人を嫌な気持ちにさせたり、傷つけたりする。  
・差別や偏見→いじめにつながる。一人一人かけがえのない尊い個別的な存在であることを無視することによって生まれる。

**誰に対しても公平に接することのよさ**

みんなが楽しく、仲良く生活できる。みんなに優しくなれる。

試合前のように「おれたちが勝てるように協力するんだぞ。」と言われたとき、けんたはどんな気持ちだったでしょう。

けんたは、何と何で迷っていたのでしょうか。

「りょうに注意できなかった」後、どうなったと思いますか。また、「仲良しで優しいAさんに注意できた」後はどうだと思いますか。

誰に対しても分け隔てなく接することのよさは何だろう。

【ねらいとする人間像・内容項目 [C 公正、公平、社会正義】

- ・相手によって公平にできなくなる主人公の弱い心が自分にもあることに気付き、主人公はどうすべきだったかを考える学習を通して、誰に対しても公正、公平な態度をとることは、みんなが気持ち良く生活することにつながることを考え、誰とでも分け隔てなく公正、公平に接しようとする児童。